

別記様式（第5条関係）

会 議 録

会議の名称	令和7年度 第1回行政評価委員会
開催日時	令和7年4月16日(水) 午後7時00分から 午後9時00分まで
開催場所	市役所本館2階大会議室
委員名	(1) 出席委員 加留部貴行、木本圭子、芹野千佳子、山下永子、山下耕治、大石くみ (2) 欠席委員 中川孝晃
所管課職員職氏名	<p>事務局</p> <p>経営企画部長 花田積 経営企画部経営戦略課長 向井泰博 経営企画部経営戦略課経営戦略係長 笹田泰弘 経営企画部経営戦略課経営戦略係 加藤慎太郎</p> <p>担当課</p> <p>【時間外勤務の縮減等によるワークライフバランスの推進及びAI・OCR、RPAの導入による業務効率化】</p> <p>総務部長 谷口由貴 総務部人事秘書課長 吉崎和哉 総務部人事秘書課人事係長 石津由起子 経営企画部情報化推進課長 藤井雄一</p> <p>【公衆便所の維持管理費の削減】</p> <p>経済産業部長 高山康和 経済産業部観光振興課長 波多野哲平</p> <p>【本木川自然公園（ほたるの里）の民営化】</p> <p>都市整備部長 長野健二 都市整備部建設課長 水上雅史</p> <p>【クラウドファンディングによる新たな財源の確保（資金調達）】</p> <p>経営企画部長 花田積 経営企画部経営戦略課長 向井泰博 経営企画部経営戦略課主幹兼企画係長 吉田亜矢 会計課長 安部晋平</p>

会 議	議 題 (内 容)	1. 市長あいさつ 2. 辞令交付 3. 委員自己紹介 4. 会長・副会長の選任 5. 会長あいさつ 6. 委員会の公開可否について 7. 諮問 8. 行政評価委員会規則の説明 9. 議事録について 10. 評価スケジュールと進め方・評価対象事業の検討 11. 評価事後報告 ・時間外勤務の縮減等によるワークライフバランスの推進 ・A I・OCR、RPAの導入による業務効率化 ・クラウドファンディングによる新たな財源の確保（資金調達） ・公衆便所の維持管理費の削減 ・本木川自然公園（ほたるの里）の民営化
	公開・非公開の別	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 非公開 <input type="checkbox"/> 一部公開
	非公開の理由	
	傍聴者の数	3名
	資料の名称	【資料1】委員一覧 【資料2】委員会規則 【資料3】評価スケジュールと進めかた 【資料4】評価対象事業について 【資料5】第3次行財政改革大綱実施計画（表紙のみ）
会議録の作成方針		<input type="checkbox"/> 録音テープを使用した全文記録
		<input checked="" type="checkbox"/> 録音テープを使用した要点記録
		<input type="checkbox"/> 要点記録
		記録内容の確認方法
その他の必要事項		

審議内容（発言者、発言内容、審議経過、結論等）

第1回 会議録

1. 市長あいさつ

市長委員の皆さまにおいてはご多用の折、行政評価委員会（以下、「委員会」という。）に出席いただいたことについて厚く御礼申し上げます。私としても、対話を大切にしながら市政運営に取り組んでいきたい所存であるが、昨年度の委員会では「対話型の評価」をしてこられたと伺っている。市民ニーズの多様化に伴い、自治体だけでは解決できない問題も増えてきた昨今、「課題を外部にも共有し、共働につなげていく」といった職員の対話力を養う面でも、委員会は貴重な場であると思う。今後の委員会の中で活発な議論を行っていただくとともに、皆さまから率直な意見を賜りたい。

2. 辞令交付

（市長から各委員へ辞令交付）
（事務局から委員会の成立について確認）

3. 委員自己紹介

（各委員による自己紹介）

4. 会長・副会長の選任

（事務局説明）

事務局では、会長を選出したい。どなたかいらっしゃるか。とくにいなければ事務局案として加留部委員を推薦したい。同委員は過去に委員会会長ならびに福津市行財政改革審議会会長などを歴任されており、経験豊富でいらっしゃるがいかがか。承諾いただけるかたは拍手をお願いしたい。

委員一同（了承の拍手）

事務局続いて、副会長を選出したい。どなたかいらっしゃるか。とくにいなければ事務局案として木本委員を推薦したい。同委員は過去に委員会委員や福津市郷育推進会議会長などをご経験されている。いかがか。承諾いただけるかたは拍手をお願いしたい。

委員一同（了承の拍手）

事務局では以後、会長に進行を依頼したい。

5. 会長あいさつ

会長委員会の進め方は、単なる仕分けにとどまらない「対話型」、すなわちどうしたらよりよい方向に進めるか、どんな考え方が市民のためになるか等を互いに探求していくスタイルで行ってきている。今回新任の委員も含め、疑問点を率直に出し合い、対話を重ねながら、進めていきたい。

6. 委員会の公開可否について

（事務局説明）

事務局福津市附属機関の会議の公開に関する要綱の第3条の規定により、本日の第1回の会議については市長が決定しているが、次回以降については会長が必要に応じて委員の意見を聞いた上で決定することとなっている。今後の会議の公開の可否の決定をこの場でいただきたいと考えているが、いかがか。

会長公開で皆さんいかがか。

委員一同（異議なし）

会長では公開でいきたい。

(傍聴人3名入室)

7. 諮問

(市長から会長へ諮問の依頼ののち、市長退室)

8. 行政評価委員会規則の説明

(事務局から説明)

9. 議事録について

(事務局から説明)

10. 評価スケジュールと進め方・評価対象事業の検討

(事務局から説明)

事務局ではここで、今年度の行革大綱の取り組みの評価対象を3つ決めたいと思う。

【資料4】【資料5】をご覧いただきたい。なお、【資料5】は現時点で各課から挙がっている「令和6年度の自己評価」等を反映しているが、暫定値・未確定な実績に基づく評価であるため、あくまで未定稿として参照いただくとともに、9月頃の公表に至るまで変更がありうることを予めご承知おきいただきたい。また、評価対象を選定するにあたり、各担当部署に評価希望の照会をかけたが、残念ながら担当部署からの希望は無かった旨を申し添える。

【資料4】に記載のとおり、事前に委員の皆様にもメールで候補を聞き取った結果、複数票が集まった「福社会館（潮湯の里夕陽館）の民営化」「企業版ふるさと納税による新たな財源の確保（税控除制度の活用）」については確定とさせていただきたい。残り1つについて、「電子決裁の拡大による業務効率化とペーパーレス化の促進」「学童保育所保育料の見直し」「野外活動広場（わかたけ広場）キャンプ施設の廃止」「宮司公民館の廃止」の4つがいずれも一票ずつという結果であったが、市としては「宮司公民館の廃止」を推薦したい。いかがか。

会長委員の皆さん、よろしいか。

委員一同（異議なし）

事務局では以上3つを、本年度の行革大綱取り組み結果の評価対象とさせていただく。なお、施策に関する評価の対象は、第3回委員会にて改めて意見を聴取し決定したい。ここまですべて質問あるか。

会長評価対象となった「宮司公民館の廃止」「福社会館（潮湯の里夕陽館）の民営化」「企業版ふるさと納税による新たな財源の確保（税控除制度の活用）」に関して、それぞれ第2回・第3回のどちらに振り分けるのか。

事務局第2回に「宮司公民館の廃止」「福社会館（潮湯の里夕陽館）の民営化」、第3回に「企業版ふるさと納税による新たな財源の確保（税控除制度の活用）」というスケジュールでお願いしたい。

会長委員の皆さん、よろしいか。

委員一同（異議なし）

会長ではその日程で進めていきたい。

11. 評価事後報告

(事務局説明)

【時間外勤務の縮減等によるワークライフバランスの推進及びAI・OCR、RPAの導入による業務効率化】

担当課（時間外勤務の縮減等によるワークライフバランスの推進について、【資料5】をもとに説明）

（AI・OCR、RPAの導入による業務効率化について、【資料5】をもとに説明）

事務局 ご質問等お受けしたい。

委員 ストレスチェックについて、部署・階層別といったより詳細な一とりわけ管理職に関しての分析が必要ではといった旨を令和6年度答申の際に申し上げていたが、いかがか。ワークライフバランスの「ライフ」の観点も含め、どういった対応が為されたのか、詳細を伺いたい。

担当課 労働安全衛生法第66条の10に基づき、「新職業性ストレス簡易調査票（80項目）」を用いてストレスチェックを実施している。詳細な分析については、令和6年度答申後から検討を行っているが、調査票の項目追加は予算の都合上、実現が難しい。大企業であれば「ライフ」に関する項目を採用しているところもあると聞き及んでいるが、近隣自治体などではそういった事例は見当たらない。しかし、本市では別途「福津市職員援助プログラム（EAP）」にて専門職等によるサポートも実施している。どういった切り口が必要かも含め、今後詳細を詰めていく必要があると考える。また、令和6年度答申の「人事秘書課では、業務の必要性から検討、改革をする必要がある」とについては、課単位ではなく部レベルで精査していかなければならないと考えている。

委員 補足させていただくと、ストレスチェックや時間外勤務は、部署・業務・階層ごとの分析に係る検討状況を訊きたかった。デジタルトランスフォーメーション（DX）もタスクベースでは進んでいると思うが、それ以上に「業務を無くす」を全体で考えて初めてワークライフバランスが成り立つのでは、という趣旨で申し上げたのだが、いかがか。

担当課 時間外勤務については職種ごとに分析を行っており、主査・主幹級が主任等より比較的多い傾向にある。理由として、頻繁な異動や突発的な業務のため、業務の適切な分配が浸透できていないのではと考察している。

委員 ここで示す「ストレスチェック集団分析結果」の数値は、他の業界と比較可能な指標なのか、経年比較できるのか、この数値が一般的に良いのか悪いのか、お聞きしたい。

担当課 80台は比較的良い数値である。他の業界との比較については、採用する項目が異なれば比較できない。経年比較は可能である。

委員 「時間外勤務の縮減等によるワークライフバランスの推進」だが、そもそも委員会自体が時間外かつ多くの職員を拘束しているのでは。また、単に時間外勤務を縮減するのが目的であれば会計年度任用職員を増やす方法もあるが、そういった議論もあるのか。

担当課 まず、こういった会議自体が負担ではというご意見もたしかにおっしゃるとおりであるが、日中では委員さんの都合がつきづらく、委員会の成立要件を満たすのが難しい実情もある。昼間に開催可能なものは日中に開催するなど、対応は図っている。また、職位に応じた責務という点から、会計年度任用職員の担当はどうしても単純作業に留まらざるを得ない。当課で実施した各課への会計年度任用職員派遣は、量的な部分への改善を図った取り組みである。会計年度任用職員の増員が必ずしも時間外削減につながるとは限らないため、仕事の質を考えながら、あてがっていかねばと思う。

委員 近隣自治体と比べ、本市において会計年度任用職員が占める割合はいかがか。

担当課 データとして取りづらいが、近年の急激な人口増に伴う負担増・業務の多様化を背景に、近隣でも比較的多いほうではないかと認識している。

委員 令和6年度答申の際も申し上げたが、組織改定・人事異動の影響が見受けられる事がある。例えば「前部署で業務を覚えてようやくこれから・・・」という折に異動となって入ってきた職員に対し、逆に私たちが指導するケースも多々ある。指標のみに囚われず、現場の状況を客観的に分析しながら、行政運営の継続性を確保できればよいかと。

会長 それに付随して。時間外削減に会計年度任用職員の配置で対応、とのことだが、正規職員の定数管理も議論していくべきかと。そちらはどういった状況か。

担当課定数管理に関しては、令和5年4月に「福津市職員定員適正化計画」を策定している。従前は職員1人あたり200人以上の市民を対応で算定していたが、実態を勘案し、職員を段階的に増やすことで、負担を減らしていく方向性でいる。職員の異動については、長期のキャリア形成の中で、若手のときにジョブローテーションを経て、将来的に幹部候補になってほしいことから、バランスを考慮しながら運用していきたい。

会長ではまとめる。今年度も着手可能なところから進めてほしい。重ねて申し上げるが、まず職員が元気にならないと市全体も元気にならない。行政サービスの質・量の塩梅を見極め、不要なものは削減しつつも、必要なところには正規・非正規問わず人員を割いていくべきではないか。今後に期待したい。

【公衆便所の維持管理費の削減】

担当課（【資料5】をもとに説明）

委員本取り組み項目における公衆便所の位置づけを確認したい。

担当課本項で扱う8つは、観光スポットの公衆便所であり、来訪者の受け入れ態勢の一環として設置している。

委員維持管理費削減の具体的な方向性を伺いたい。

担当課現在は清掃回数の削減と、トイレトーパー等消耗品の補充頻度の見直しを検討している。清掃頻度では、6回/週とほぼ毎日清掃している施設が多数あるため、実施業者からの日報やヒアリングを参考に、削減可能箇所を洗い出していきたい。

委員「清潔さを維持しながら」維持管理費を削減するという目的だが、清潔さの指標が取れていない、という認識でよいか。

委員前年度からの経緯を申し上げると、単なる「清潔で使えればよい」ではなく、施設ごとの利用状況に合わせたメリハリをつける一例えば場所によってはアートオブジェのようなスポットとして整備したり、有料化したりする等の議論があった。これについて、調査研究の実施状況はいかがか。

担当課調査に関しては、各便所の利用状況を、水道代から割崩したものを近似値として算出した。その結果、利用頻度の大小を明確に線引きすることができた。他方、経年劣化が顕著な施設についても把握ができています。令和6年度は情報収集を行い、令和7年度中に方向性を固めていければという所存である。

委員昨年度は、利用者のマナーの悪さに起因する補修等についても取り上げた。その後の調査で、これは改善したのか。

担当課令和6年度は、特段対策をとったわけではないがそういった事例は確認していない。

委員以前は詰まりに係る対応が多かったとのことだが、その点では今回維持管理費を削減できたか。

担当課詰まりへの対応は我々としても、どういった設備改修が詰まりの予防になりうるかを調査研究している。例として、宮地浜駐車場の公衆便所は、海沿いの立地ゆえに砂詰まりが多発していたが、令和5年度に改修した結果、詰まりが0になった。

会長実績値を追っていくと、維持管理費は上下を繰り返している。対策を講じていくことで、収束していく形になるのでは。8つの施設「全体」だけでなく、8施設「ごと」の状況を細やかに分析し、利用状況・地域性に即した対応をとっていくべきかと。

委員飲食業界などもまさに悩まされている案件で、「便器の形状を変える」「シールを貼る」等で効果が出た事例も聞き及んでいる。改修の際はそういった工夫もおりこめれば。

会長より細やかな方向性が今後見えてくればと思う。引き続き改善をお願いしたい。

【本木川自然公園（ほたるの里）の民営化】

担当課（【資料5】をもとに説明）

委員 指定管理者制度による一括管理は是非検討いただきたい。令和6年度答申でも申し上げた、市を超えた連携に関しても前向きとのことで、安心している。これから、耕作放棄地などへの対応が全国的に問題化していきだろう中で、市の垣根を越えた運営は大変重要になってくる。本事例が良いプラットフォームになってくれれば。

委員 昨今、公園に係るプライベート・ファイナンス・イニシアチブ（PFI）も盛んであるため、一体的な管理を検討するうえで一つ有効な手段かと思う。公共施設として必要な機能は整理しつつも、専門的知見を有する民間に任せるのがよいのでは。

委員 市の枠組みを超えた連携が重要なのはさることながら、稼ぐまちづくりも視野に入れ、既存の資源を有効活用する「攻め」の姿勢を大切にしてほしい。令和6年度答申でも申し添えたが、庁内他部署との連携を経て、市が委託候補事業者に「魅力ある場所にしてほしい」旨を強く訴えかけるべきと考える。

会長 一括管理は私も現実的だと思う。そのうえで、既に指定管理者を置いている4施設に加える手続き上、突発的に発生しうる経費も想定しておかなければならない。民間事業者側も、具体的な現況を提示してもらえないと如何ともしがたいケースがある。例えば、市として投資してほしい思いがあるなら、委託後数年間は本来の委託料に+αする考え方があってもよいのでは。民間事業者側の目線も大切かと。また、広域連携については、公園関係ではあまり事例を聞かないが、ぜひ福岡県からスタートしてほしいと思う。現に、消防、福祉や図書館などでは事例がある。「単体で難しい案件に連携して取り組んでいく」姿勢を、県にも協力を促しながら、福津市ないし福岡県から広めてほしい。

委員 これにあわせて、5つの公園に限らず、市内のその他小規模公園等も一括管理する方法も検討していただきたい。

会長 前年度と比較すると、サウンディングを実施するなど、取り組みが着実に進んでいるのではないかと思う。今後に期待する。

【クラウドファンディングによる新たな財源の確保（資金調達）】

担当課（【資料5】をもとに説明）

委員 令和6年度答申で申し上げたが、寄附対象事業がいかに市民からの共鳴・共感を得られるかが重要である。今回の20周年記念誌の作成は、はたして市民の達成感を刺激するテーマだったのだろうか。誰しも、自分の寄附が役に立ったという気持ちが達成感一ひいては Well-being に繋がりうる。今後、寄附対象テーマの選定についてどうお考えか伺いたい。

担当課 今回のテーマは事務局及び担当課としても適当ではないかと考えたが、結果として賛同を得られなかった形となった。事業の選定と周知の方法、いずれに問題があったのかの分析はできていない。

委員 ミニ公募債（一般個人を対象とする公募債）というのがあったが、いかがか。

担当課 市民の共感を得るという点では手法としてありうる。ただし、いわゆる借金であることに加え、魅力ある配当を検討しなければならない負担や、そもそも制度上対象となる取り組みに条件がある。

委員 例えば久留米市×NPO法人の事例のように、NPO法人等の取り組みを対象とするのはいかがか。

担当課 久留米市も、寄附金を一旦市で受け取って、当該団体に補助金を渡すという形式を採っているかと思う。

福津市としては一旦、市の事業に共感していただき、寄附を募るという取り組みを想定している。

委員 現場で取り組む団体を支援する姿勢が、より市民の賛同を得られ、寄附の間口を広げると思う。

委員 今回については、周知方法よりも対象事業の選定が悪かったのでは。「20周年」に今の福津市民一とりわけ転入して間もないかたがたがどれだけ惹かれるのか、周

りを見ても、盛り上がるの声は聞こえない。例として「〇〇を魅力ある観光資源にする」といったテーマなら、市民も貢献度合いを想起しやすい。他部署とも連携しながら、もう少し明確なテーマ選定を。

会長 寄附をする側からすれば、その用途が見えやすく具体性があるもののほうが寄附しやすい。寄附先の喜びがイメージしやすいことで、先に取り上げた **Well-being** にも寄与すると思う。表面的な損得だけを勘案するのではなく、明確なストーリーを描かないと、根本的な改善には至らないのでは。ただ、今回トライして経験を得たという点では一歩前進である。

委員 福津市中学生未来会議において、中学生から「クラファンでお金を集めてお祭りがしたい」という声があったのを思い出した。誰のどんな思いを支援するかを明確にするのが重要である。

委員 事後評価報告のこれまでの3つも含め、クラファンを活用し、市民のワクワクにつながられるのではと思った。公衆便所や、公園の、ここをこうしたい・こんなイベントをするためのクラファンと提案すれば、特に若い世代は賛同してくださるのではないか。

委員 学生さんや近所のかたをまきこんだコラボクラファン募集、のような乗っかり方のほうが、敷居が低いか。

担当課 予算の仕組みが前提ではあるが、行政の枠組みにとらわれない切り口も検討していきたい。

会長 では、評価事後報告については以上とする。

事務局 次回日程は先に申し上げたとおりである。では、以上で閉会とする。